

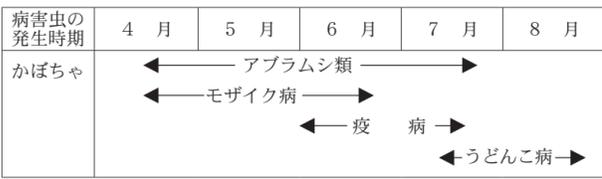
# 令和6年用かぼちゃ・だいこん病害虫防除基準

※殺虫剤を散布する場合は、訪花昆虫に対する薬剤ごとの安全使用基準を徹底する。

発行：J A さ が え 西 村 山  
さがえ西村山野菜振興協議会

## かぼちゃ

防除時期	対象病害虫名	RAC	防 除 方 法	〔収穫前使用日数/使用回数〕	注 意 事 項
定植時	ネキリムシ類	1B	ダイアジノン粒剤5 (4~6kg/10a)〔は種時又は定植時/2回以内〕を全面土壌混和、又は作条土壌混和する。		
	アザミウマ類	4A	アドマイヤー1粒剤〔定植時/1回〕2g/株を植穴土壌混和する。		1. 茎葉、根に薬剤が直接触れないように注意する。
生 疫	病	UN,M3 P7	ベンコゼブ水和剤 600倍 (16.6g/10ℓ)〔21日前まで/2回以内〕 アリエッティ水和剤 800倍 (12.5g/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕	のいずれかを10a当たり100~300ℓ散布する。	1. 排水をよくする。 2. 発病すると有効な薬剤がないため予防散布に努める。
	褐斑細菌病	M1	コサイド3000 2,000倍 (5g/10ℓ)〔-/-〕		1. 魚類に強い影響を及ぼす恐れがあるので、特に注意する。 2. 収穫間際の使用は汚れを生じるので留意する。
ベ と 病	M5 M5,40 11	ダコニール1000 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔7日前まで/3回以内〕 プロボーズ顆粒水和剤 1,000倍 (10g/10ℓ)〔7日前まで/3回以内〕 ストロビーフロアブル 3,000倍 (3.3ml/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕	のいずれかを10a当たり100~300ℓ散布する。	1. ストロビーフロアブルはおうとうに葉害があるので、飛散しないように注意する。また浸透性を高める効果のある展着剤を使用すると葉害の恐れがあるので展着剤は加用しない。 2. ストロビーフロアブルは耐性菌出現防止のため連用は避け、総使用回数は2回以内とする。	
	果実斑点細菌病	M1 M1		コサイド3000 2,000倍 (5g/10ℓ)〔-/-〕 Zボルドー 500倍 (20g/10ℓ)〔-/-〕	3. プロボーズ顆粒水和剤は疫病にも登録がある。
育 う どん こ 病	M7 3 3	ベルコート水和剤 1,000倍 (10g/10ℓ)〔7日前まで/4回以内〕 トリフミン水和剤 5,000倍 (2g/10ℓ)〔前日まで/5回以内〕 スコア顆粒水和剤 2,000倍 (5g/10ℓ)〔3日前まで/3回以内〕	のいずれかを10a当たり200~300ℓ散布する。	1. EBI剤(トリフミン水和剤、スコア顆粒水和剤など)は耐性菌出現防止のため、総使用回数は2回以内とする。	
	アブラムシ類〔ウリハムシ〕 ハダニ類	4A 3A 1B 1B		モスピラン顆粒水溶剤 <sup>Ⓢ</sup> 2,000倍 (5g/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕 アディオン乳剤 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/5回以内〕 マラソン乳剤 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/5回以内〕 スミチオン乳剤 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔14日前まで/3回以内〕	1. ウリハムシの発生が多いところでは、マラソン乳剤(1,000倍)を散布する。 2. ハダニ類の発生が多いところでは、マラソン乳剤を散布する。 3. 合成ピレスロイド剤(アディオン乳剤)、スミチオン乳剤は蚕・魚類に対する毒性が特に強いので注意する。モスピラン顆粒水溶剤 <sup>Ⓢ</sup> は蚕に対する毒性が強いので注意する。



## 防除の考え方など

アブラムシ類	アブラムシ類はCMV等モザイク病を媒介するので、生育初期に寄生されないよう注意する。また、すす病の原因となるため、生育後期も密度が上がらないように注意する。そのため、アブラムシの防除を徹底する。
モザイク病	モザイク病は、他の株への感染源となるため必ず抜き取る。また、モザイク病は樹液感染するため、整枝作業は極力ハサミを使わない。
疫 病	疫病は、多湿条件で発生しやすいため、排水対策には十分留意する。また、前作(なす、トマト等)によっては土壌に菌が高密度で残っているため注意する。
う どん こ 病	乾燥気味の気象条件で発生しやすく、成熟期に近づき草勢が低下する頃から発生が目立つようになる。

## 除草剤使用基準

薬 剤 名	RAC	10a当り薬量/散布量	使 用 時 期	使用 方法	使用回数	適用 雑 草	特 性	農薬の使用にあたっては、使用回数に加え、有効成分ごとの総使用回数も定められているので遵守する。						
								成分名	農 業 名	RAC	使用回数	同一成分総使用回数	備 考	
土 壌 処 理 剤	トレファノサイド粒剤25	3	2kg	定植前(植穴掘前)(マルチ前)	全面土壌散布	2回以内	一年生雑草	・トンネル・マルチ栽培に限る。但し、マルチをしないトンネル栽培ではガス化による葉害の恐れがあるので使用しない(気化しやすい)。 ・ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科には効果がない。	TPN	ダコニール1000	M5	3回以内	3回以内	
	クレマート乳剤	3	200~400ml/100~150ℓ	定植・マルチ前(雑草発生前)	全面土壌散布	1回	一年生雑草			・ガス化しないのでトンネル・ハウス・マルチ栽培で使える	プロボーズ顆粒水和剤	M5,40		3回以内
処 理 剤	バスタ液剤	10	300~500ml/100~150ℓ	雑草生育期:定植前又は畦間処理(収穫30日前まで)	雑草茎葉散布	2回以内	一年生雑草	・非選択性、スギナに効果高い						

## だいこん

防除時期	対象病害虫名	RAC	防 除 方 法	〔収穫前使用日数/使用回数〕	注 意 事 項
は 種 前	(萎黄病)				1. 連作を避ける。 2. 抵抗性品種を栽培する。 3. 前作にライムギ、ソルゴーなどのイネ科作物を栽培すると本病の発生を軽減できる。
	ネグサレセンチュウ	1B	ネマトリンエース粒剤(15~25kg/10a)〔は種前/1回〕を全面土壌混和する。		
は 種 時	ネキリムシ類 タネバエ	1B	ダイアジノン粒剤5〔は種時/1回〕を10a当たり4~6kg全面土壌混和又は作条土壌混和する。		1. 薬剤を使用した場合は、間引いたものを食用にしない。 2. キスジノミハムシの多いところでは、播種時の防除を行った後、発芽後の防除を2~3回行う。 3. ダイアジノン粒剤5はキスジノミハムシにも登録がある。
	キスジノミハムシ	4A 3A	スタークル粒剤 (4~6kg/10a)〔は種時/1回〕 フォース粒剤 <sup>Ⓢ</sup> (4kg/10a)〔は種時/1回〕	のいずれかを播溝土壌混和する。	
発 芽 期	キスジノミハムシ ハイマダラノメイガ カブラハバチ幼虫	1B	エルサン乳剤 <sup>Ⓢ</sup> 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔30日前まで/2回以内〕	を10a当たり100~300ℓ散布する。	1. ハイマダラノメイガの防除時期は、本葉1~2葉時と間引き終了時なので、防除時期を失しないよう早めに散布する。
生	べ と 病	M1	サンボルドー 500倍 (20g/10ℓ)〔-/-〕	を10a当たり150~300ℓ散布する。	1. ボルドー剤は、水稲(穂ばらみ期~出穂期)に葉害が出るので飛散しないように注意する。 2. サンボルドーは過度の連用、高温時の散布により葉緑部の黄化、葉の硬化などの葉害が生じるため注意する。
	軟 腐 病	3I M1	スターナ水和剤 1,000倍 (10g/10ℓ)〔14日前まで/5回以内〕 Zボルドー 500倍 (20g/10ℓ)〔-/-〕	のいずれかを10a当たり100~300ℓ散布する。	1. キスジノミハムシなどの害虫の加害をうけた傷口から侵入するので、防除を徹底する。 2. 例年発生の多いところでは、野菜の連作を避ける。 3. 播種はできるだけ遅らせる。 4. 発病株は早期に抜き取り適切に処分する。 5. Zボルドーはべと病にも登録がある。 6. ボルドー剤は水稲(穂ばらみ期~出穂期)に葉害が出るので、飛散しないように注意する。
育	ネキリムシ類	1A	デナポン5%ペイトを発生初期に10a当たり3~6kg〔30日前まで/4回以内〕株元散布する。		1. 施用直後降雨にあった場合は再処理をおこなう。
	アブラムシ類 (カブラハバチ)	4A 1B	モスピラン顆粒水溶剤 <sup>Ⓢ</sup> 2,000倍 (5g/10ℓ)〔14日前まで/1回〕 サイアノックス乳剤 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔14日前まで/2回以内〕	のいずれかを10a当たり100~300ℓ散布する。	1. モスピラン顆粒水溶剤 <sup>Ⓢ</sup> はキスジノミハムシ、コナガ、アオムシ、カブラハバチ、ダイコンサルハムシにも登録がある。 2. モスピラン顆粒水溶剤 <sup>Ⓢ</sup> は蚕に対する毒性が強いので注意する。 3. サイアノックス乳剤はコナガにも登録がある。
期	モザイク病		アブラムシ類の防除を徹底する。		1. 発病株は早期に抜き取り、適切に処分する。 2. 発病株に触れた手で健全株に触れない。
	アオムシ ヨトウムシ	3A,1B 3A 30 15	ハクサップ水和剤 <sup>Ⓢ</sup> 2,000倍 (5g/10ℓ)〔35日前まで/3回以内〕 トレボン乳剤 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔21日前まで/3回以内〕 プロフレアSC 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕 アタブロン乳剤 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔14日前まで/3回以内〕	のいずれかを10a当たり100~300ℓ散布する。	1. 若令幼虫時に散布する。 2. 葉の裏にも十分散布する。 3. 合成ピレスロイド剤(トレボン乳剤、ハクサップ水和剤 <sup>Ⓢ</sup> )は蚕・魚類に対する毒性が特に強いので注意する。また、抵抗性出現防止のため使用回数を2回以内とする。 4. ハクサップ水和剤 <sup>Ⓢ</sup> は幼苗期では葉害の生ずる恐れがあるので使用を避ける。 5. プロフレアSC、アタブロン乳剤はキスジノミハムシにも登録がある。
コ ナ ガ	28 UN	フェニックス顆粒水和剤 2,000倍 (5g/10ℓ)〔7日前まで/2回以内〕 プレオフロアブル 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔14日前まで/2回以内〕	のいずれかを10a当たり100~300ℓ散布する。	1. 若令幼虫時に散布する。 2. 葉の裏にも十分散布する。 3. プレオフロアブルは、アオムシ、ヨトウムシにも登録がある。	

## 除草剤使用基準

薬 剤 名	RAC	10a当り薬量/散布量	使 用 時 期	使用 方法	使用回数	適用 雑 草	特 性	
土 壌 処 理 剤	トレファノサイド乳剤	3	150~200ml/100ℓ	は種直後	全面土壌散布	1回	一年生雑草	・トンネル・ハウス栽培ではガス化による葉害の恐れがあるので使用しない(気化しやすい)。 ・ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科には効果がない。
	ラッソー乳剤	15	150ml/100ℓ	は種直後	全面土壌散布	1回	一年生雑草	・イネ科、カヤツリグサ科に効果高い ・砂壌土では使用しない。
茎 葉 処 理 剤	ナブ乳剤	1	150~200ml/100~150ℓ	雑草生育期(イネ科雑草3~5葉期)(収穫14日前まで)	雑草茎葉散布又は全面散布	1回	一年生イネ科雑草	・イネ科作物には葉害があるので注意する。 ・遅効性で枯死するまでに7~10日必要 ・スズメノカタビラには効果がない。
	バスタ液剤	10	300~500ml/100~150ℓ	雑草生育期:は種前又は畦間処理(収穫45日前まで)	雑草茎葉散布	2回以内	一年生雑草	・非選択性、スギナに効果高い
	ワンサイドP乳剤	1	50~100ml/70~100ℓ	雑草生育期(イネ科雑草3~5葉期)(収穫45日前まで)	雑草茎葉散布又は全面散布	1回	一年生イネ科雑草	・イネ科作物には葉害があるので注意する。 ・スズメノカタビラには効果がない。
	ラウンドアップマックスロード	9	200~500ml/50~100ℓ	雑草生育期(耕起前又はは種前まで) 雑草生育期:畦間処理(収穫5日前まで)	雑草茎葉散布	2回以内	一年生雑草	・非選択性 ・吸収移行型除草剤